

2年1組5班の活動報告です。古谷すみれ 中俣乃音 酒向杏実

◇ 研究テーマ「差別のない社会の実現」

偏見のない社会の実現について研究しました。

現在の日本の偏見には、広く知られているものとして、障がい者差別、貧困による差別、LGBT、また、コロナウイルスによって生まれた、コロナハラスメントなどがあげられます。

しかしこれは一部にすぎず、普段の何気ない事から、偏見は生まれます。

◇ 実践したこと（フィールドワークなどで調べて分かったこと）

インターネットを活用し、ツイッターのハッシュタグ（「#LGBTさんつながりたい」「#セクマイさんつながりたい」「#発達障害あるある」など）を調べたり、取り組みをされている企業の方に電話でお話を聞いたりしました。

これらの活動から、この大きな社会問題解決に対して、私たちにできることはごくわずかであり、それは、この問題は、一人一人の意識の持ちようで変わるからということが分かりました。また、正しい知識があれば、偏見を減らすことができるということが分かりました。

◇ 提案

そこで私たちは偏見のない社会の実現に向けて、「交流の場を作ること」を提案します。ツイッターなどといったメディアを使って気軽に交流したり、自分から情報を共有したりすることができます。また、ここ数年では、メディアなどの公の場にも、多種多様な形で多くの方が活躍し、見た目や考え方などへの理解が深まり、当たり前になってきました。

私たちにできることとして、まずは、正しい知識を知ることが大切です。苦しんでいる人の声を聴くことが必要です。誰もが暮らしやすい社会の実現に向けて、いろいろな差別について、調べてみませんか。

◇ 活動を通じて考えたこと

偏見について調べていく中で、ツイッターやインスタグラムで様々なコミュニティが広がっていることを知り、まだまだ世間に少数派の人たちのことが伝わっていないことが分かりました。提案した通り、正しい知識を多くの人を持つことが大切だと思いました。（古谷すみれ）

普通に生活する中で、偏見について考えることは少ないし、ましてや解決方法について考えることはないのととても良い経験になりました。偏見をなくすことは、まだ難しいかもしれないけど、理解を深めることが大切だと思いました。（中俣乃音）

様々な偏見について、苦しんでいる人がいて、また、そういった人のための、声を発信できる場があると知りました。しかし、この問題を本人だけで解決してしまっただけでは、偏見を減らせないため、全体で取り組んでいくべきだと思いました。（酒向杏実）